

千葉県魅力ある建設業推進協議会(CCIちば)

小学校出張授業

市川市立塩浜学園

千葉県魅力ある建設事業推進協議会(CCIちば)は、10月6日(金)市川市立塩浜学園4年生を対象に、建設業に関する「出張授業」を開催いたしました。

今回の授業は、初の試みとなる「造園業特化型建築プログラム」として行われました。

当協会広報の湯浅浩一委員長(株ユアサ園芸)、松戸克浩副委員長(株新松戸造園)、海瀬大五郎委員(株サンライズグリーン)が講師として参加しました。

NPO法人企業教育研究会の市野 敬介さんが司会進行を務め、3時間目の45分間、4時間目の45分間、計90分の授業を行いました。

3時間目の授業では、市野さんが「千葉県の建設業のお仕事」をテーマに、「学校の建築現場」を題材にして、5名の人物の仕事を、場所と道具を照らし合わせてクイズ形式で楽しく伝えていきました。3時間目の最後には、造園の仕事の一つである、植栽基盤診断で使用する「長谷川式土壌貫入計」の実物を見せ、実際に土壌の硬度を計測する様子を見てもらいました。この「長谷川式土壌貫入計」は、子供達に限らず先生方も興味津々で、休憩時間に落錘(ランマー)を持ってその重量に驚いていました。

4時間目の授業では、まず松戸さんが、墜落防止装置と腰道具(剪定鎌・鋸)を装着して、道具の用途を説明しました。また、自社のパンフレットを用いて、

造園の仕事は女性の感性が活かせる仕事であり、自社ではたくさんの女性が活躍していることを紹介し、造園の仕事とは至る所にあり私たちの生活に密接していると話しました。

次に湯浅さんが、市川市とパートナーシティであるフランスのイッシー・レ・ムリノー市に造った日本庭園「市川庭園」の話をしました。当時湯浅さんが代表理事を務めていた、市川造園建設業協同組合に、市川市から庭園を造ることを提案されて実施した経緯や、日本のような松がなく苦勞した点、灯籠を日本から運んだ事、竣工式では桜の木を植樹した事を話しました。

3番目に海瀬さんが、地元市川市で昨年11月に一部オープンした公園「びあばーく妙典」について話しました。コンセプトは「身障者の方とも一緒に遊べるインクルーシブな公園」であり、車いすに乗ったまま遊べる「築山遊具」や、階段でなくスロープで行ける「すべり台」は、幅が広く保護者と一緒に滑れることを紹介しました。また、「どろんこ広場」や「土管のトンネル」「人工芝で滑って遊べる山」があり、自分で遊びを考えて遊べる公園であることを話しました。

最後に、講師3名で子供たちに「造園業は、建設業の中で唯一生き物を扱う職業であり、「樹木医」という医者がいるほど幅が広い。是非興味を持っていただき、大人になって造園業に来てくれたらうれしい」と伝え、大変好評の中、授業を終えました。

(広報委員 海瀬大五郎)



市川市立塩浜学園 出張授業風景

栄町立安食台小学校

千葉県魅力ある建設事業推進協議会（CCIちば）は、10月6日（金）市川市立塩浜学園での開催に引き続き、11月29日（水）に栄町立安食台小学校の多目的教室にて6年生37名を対象に、建設業に関する「出張授業」を開催いたしました。

今回の授業も、前回同様に「造園業特化型建築プログラム」として行われました。

当協会広報委員長の湯浅浩一さん（株ユアサ園芸）、副委員長の松戸克浩さん（株新松戸造園）、委員の海瀬大五郎さん（株サンライズグリーン）と委員の豊田祐二さん（京成バラ園芸株）が講師として参加しました。

NPO法人企業教育研究会の市野 敬介さんが司会進行を務め、5時間目の40分間、6時間目の40分間、計80分の授業を行いました。

5時間目はまず市野さんが「学校の建築現場」を題材にして、登場した5名の人物の仕事内容を、画像を通して説明をしました。次に植栽基盤診断で使用する「長谷川式土壌貫入計」の実物を見せ、実際に計測する様子を見てもらいました。5時間目の最後に、道具の用途を説明する為に、墜落防止装置と腰道具を装着した松戸さんが登場し、自社のパンフレットを用いて、造園の仕事は幅広く至るところにあり、私たちの生活と密接していると話されました。休憩時間では生徒達が、松戸さんが身に着けているフルハーネスに興味津々に触っていました。

6時間目の最初には湯浅さんが、市川市とパートナーシティであるフランスのイッシー・レ・ムリノー市

に造った日本庭園「市川庭園」の話を、庭園の画像を流しながら話をしました。画像を見た生徒から「おしゃれ」「綺麗」という言葉が飛んでいました。

次に海瀬さんが、市川市で令和4年11月に一部オープンした公園「ぴあぱーく妙典」の話では、公園が出来上がっていく工程をビフォーアフターの画像で分かり易く話をしました。ラフタークレーンを使って、11mのモミノキの植栽の話では、皆さん驚いて画像に見入っていました。

そして豊田さんが、造園の仕事は公園を作るだけでなく、公園を造る為に必要な材料を作る仕事もあるという話を「バラ」を題材にして話しました。バラが7,000万年前の白亜紀後半の恐竜が絶滅するちょっと前の遙か昔から存在していた話や、品種改良に使用された原種のうちの3種類、ノイバラ、テリハノイバラ、ハマナスは日本原産と言う話に生徒たちは驚いていました。品種の分類の話では、樹形による分類、花の色・形・香りによる分類がなされている事を持参したバラを見てもらいながら話をしました。

生徒達はバラの花束に興味を惹かれていた様子でした。

最後に湯浅さんが代表で、造園業は建設業の中で唯一生き物を扱う職業である事。私達の生活には緑が必要で、地球が元気である為にも必要な物である話をし、この授業を通して関心を持ってもらった人の中から、一人でも多くの方が造園の道に進んでもらえると嬉しいです、という言葉で締めくくりました。

（広報委員 豊田祐二）



栄町立安食台小学校 出張授業風景